

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

生活の踏襲が永続発展する 東城 百合子 (あなたと健康主幹)

1. 今の人たちは「生活」がないのです。掃除・洗濯・料理を軽視して、男性も女性も「お金が大事」と外に働きに出て、家の中はがらんどうでしょう。食事だって、そのへんで買ったものを適当に食べている。何か問題が起きてから初めて気づくのです。
2. 日本の会社で、創業以来 1000 年を超えるところが 7 社あるそうです。200 年を超える会社なら 3000 社以上だとか。こんなに永続している会社が多いのは世界でも日本だけなんです。なぜそんなに続いてこられたのかというと、生活の踏襲があったからだと思います。生活というのは頭や理屈ではなく、体が覚えていくこと、弟子に対して体で覚えさせ踏襲してきたからこそ、続いたんだと思います。
3. 日本人は生活の中から工夫して知恵を積み上げ、人様に喜ばれるものを作り、次につなげてきた歴史を持っていたのです。でも今の教育はそういう歴史を教えない。生活を軽視して、勉強とカネ儲けの教育ばかりでしょ。先祖が積み上げてきたものを崩したら国は終わります。昔の人は生活を通して、大きな自然の根源の力の存在を体で感じとって「おてんとうさま」と呼んで大事にしてきました。そういうことが分からなくなっているのが現在の日本の姿です。

(参考:「日経ビジネス」2010 年 12 月 20 日・27 日号)

経営者のための理念・哲学

難儀を苦勞と受け止めない

1. 人生に運とツキと言うのは確かにある。しかし、運もツキも棚ぼた式に落ちてくるものではない。安岡正篤先生は、「永久の計は一念の微いちおんにあり」と言っている。人生はかすかな一念の積み重ねによって決まる、というのである。
2. 松下幸之助氏のむめの夫人は、若き日に、次のように語っている。「苦勞と難儀とは、私は別のものだと思っています。苦勞というのは心のもちようで感じるものだと思います。ものがない、お金がないというのは苦勞だといわれておりますが、私はこれは難儀だと解しています。常に希望を持っていましたから、私は苦勞という感じは少しも持たなかったのです。難儀するのは自分の働きが足りないからだと思っていたふしもありました」。難儀を苦勞と受け止めない。若き日のむめの夫人は、一念の微の大事さを感じ得していたのだ。

(参考:「致知」:2011 年 3 月号)

経営者のための危機管理

勇敢と無謀を分けるものは何か

1. 「常勝社長」ほど、実はもろい。拡大路線をひた走った注目企業が、突然つぶれる。過去の急成長企業の破綻例が教えてくれるのは、そんな事実だ。新しい事業を立ち上げるとき、それが成功するかどうかは、結局のところ、やってみなければ誰にも分からない。未開拓の新市場にオーナーの決断一つで果敢にチャレンジできるのは、オーナー経営の大きなメリットだ。
2. しかし、勇敢と無謀の間には、千里の徑庭けいていがある。両者を分けるのは何か。それは「負け」を勘定に入れているかどうかの差だ。さまざまな事業に大胆に乗り出す一方で、「のるかそるかの大勝負はしない」という限度を決め、大胆さの裏側に細心が必要だ。本田宗一郎は「失敗のない人生なんて面白くない」と喝破した。名経営者もまた失敗と無縁ではない。むしろ失敗を成長の糧とした。

(参考:「日経トップリーダー」2011 年 2 月号)

古典に学ぶ

組織に勢いをつけよう

「智恵ありといえども、勢いに乗ずるに如かず。磁基ありといえども、時を待つに如かず」

(訳)「磁基」とは鋤くわや鋤すきなどの農具のことです。訳しますと、「素晴らしい智恵があつたとしても、勢いに乗ずるほうが優っている。立派な農具があつたとしても、時を待たなければよい収穫は期待できない」というのです。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)